

くらしのデザインラボの活動

岡本誠（くらしのデザインラボ）

2026.07.27



1. 概要

くらしのデザインラボは、「ものづくり」を通じて、市民が主体となって地域の暮らしを創り、学び合う仕組みを育てるトヨタ財団助成事業です。西部地区を舞台に、若い人から高齢者までが一緒に活動し、地域の資源（人、文化、技）を活かしながらものづくりを行い、新しいもの・ことづくりに挑戦します。

2. メンバー

高校生から高齢者まで、多様な人で構成されています。30 名弱から始まり少しずつ増加中。

3. 主な活動

3.1 街の道具とぶらぶら歩き

ベンチや本棚などの「くらしの道具」を制作し、地域の半公共空間に設置します。歩きたくなる・立ち寄りたくなる街をつくるのが目標です。この活動は、高齢者の外出を楽しくし、住民・移住者・観光客など多様な人がつながるきっかけを創ることを目指します。

①くらしのベンチ

弁天町周辺などをフィールドにして、暮らしを豊かにする道具の制作

活動拠点：キメラ箱館内「キメラキチ」（函館市景観登録建築物、弁天町）

a. 町ベンチ（調整中）

想定利用者：住民、墓参者、観光客など。港の風景を誰かと楽しむベンチ。

b. くらしに役立つベンチ（家具）

キメラキチ前のベンチ、パブリック家具の制作とベンチショールーム。

②工作教室

・スライドソーを使う工作教室・ベンチ解体組み立て WS など



街の道具とぶらぶら歩き（スケッチを介した共創、身を置いて体感する、工作を楽しむ）

3.2 みんなでつくる博物館

市立函館博物館をフィールドに、学芸員と市民が協働し展示企画や展示あるいは展示場の改良に参加し、ものづくりを介して歴史・文化と市民の接点を育てるプロジェクトです。展示を「見る場所」から、市民が「語り合い、つくり、共有する場所」へと発展させることを目指します。活動には、市民だけでなく移住者の方などの参加も歓迎。創作過程の学び合いは、地域文化を知り未来へつないでいく博物館の役割の一つになると思います。

① サインノキセキ

- ・現状の博物館の案内表示（サイン）は、わかりにくく調和を保てていない
- ・近代建築の魅力を活かせていない
- ・>歴史に習い、新しいデザインを目指す
- ・博物館に残る古い資料のフォントを分析し、特徴を解釈したオリジナルフォントを創作
- ・博物館に残る古材を用いてサインの枠を創作

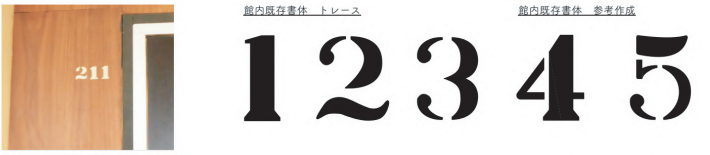
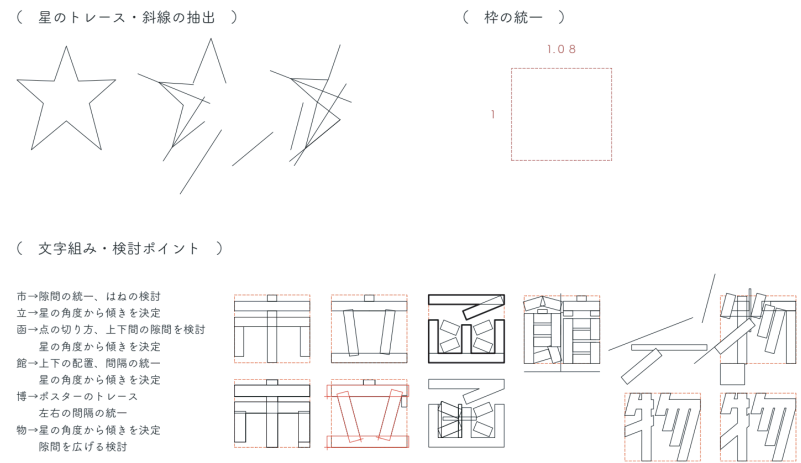
②触って見る展 4/25～6/28日 市立函館博物館

「ヘレン・ケラーが「みた」昭和十二年函館ー触れてみる、触れて聞くー」の中の独自企画

- ・ヘレン・ケラーのように「触って見る」ことを体感する展覧会を企画し、触れる展示（社寺模型のレプリカ、触図など）や視覚障害支援機器の歴史や実機の展示を制作しました。またヘレン・ケラーの函館訪問を追体験するワークショップを開催しました。
- ・展覧会を創る過程に、視覚障害者、模型を作った高校生など多くの人に参加していただきました。



1 北洋博 ポスターから



サインノキセキの試作過程（上：古資料から造形要素の抽出、下：館内の調査とフォントの試作）



触って見る展（左：触れる鳥居、右上：消化器官の触図。右下：目を瞑って宿帳に記帳する体験）

3.3 学びあう環境の構築・広報

①交流会：異分野の人との交流で活動に化学反応を起こす

第1回：「共創のちょっと先に」①デンマークの市民参加：デンマーク ロスキレ大学 安岡先生、②内側と外側から考える函館らしさ：In&OUT 阿部さん

第2回：「ものづくりと社会の関わりについて」北海道芸術デザイン専門学校 桂先生

第3回：「デンマークの暮らし、函館の暮らし」①Wellbeing: 多様性。ものづくり・共感。②デンマークでの経験と挑戦から学ぶもの。デンマーク ロスキレ大学 安岡先生、くらしのデザインラボと学生団体 ISARIBIwith との共同企画。ワークショップも同時開催し、交流を深め、「素敵な街の詩」が生まれた。

＊今後の企画案：AI とまちづくり、地方や台湾とのオンラインミーティング等

②情報化によるコミュニケーション、デザインスキルの向上

- ・オンライン会議（函館、東京、コペンハーゲン）
- ・情報発信、情報共有（LINE、Instagram、Google Workspace など）
- ・AI の試行（議事録、アイデア出しなど）
- ・クルクルスケッチ（共同発想法）

4. 関連活動

文化庁 Innovate MUSEUM 事業 ミュージアム「表現・創造」プロジェクト
市立函館博物館、各種団体、市民（2025/7-2026/2）

Part1「みんなでつくるハコハク」

①体験の流れ、②体験展示、③経験の持ち帰り（グッズ）を企画・制作。
くらしのデザインラボメンバが多数参加。

ものづくりと社会の関わりについて

字を自分自身で構築し、自分の手でたどりしいるプロセスを言葉と作り、その視点は、暮らしの地のあり方を考える上でも多くの示唆を与えてくれるものだと思います。

くらしのデザインラボ 交流会02

日時：2026年4月4日（土曜） 14時から16時30分

会場：函館市地域交流まちづくりセンター 3F 会議室B 北海道函館市末広町4-19

料金：無料

主催：くらしのデザインラボ（トヨタ財団国内助成プログラム）

話題提供: 桂光子先生

北海道芸術専門学校クラフトデザイン専攻教員、北海道教育大札幌校卒業。北海道美術協会会員、木育マイスター、ウッドデザイン賞（2016）受賞など。

くらしのデザインラボは、トヨタ財団の支援を受け、「ものづくり」を原点に、地域の人々が協働して新しい暮らしをつくる活動を展開しています。人の想像力や表現力を磨いて、自らが暮らしを更大にいく創造的な職人の養成を目指しています。この活動の一環として、交流会を開催しています。立場や分野を越えた対話と交流を通して、新たな気づきや今後のつながりが生まれることを期待しています。ご興味のある方は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

交流会チラシ（左：桂先生、右：安岡先生）



くらしのデザインラボ 交流会03

くらしのデザインラボ・ISARIBI with 合同企画

デンマークの暮らし、函館の暮らし

日時：2026年6月16日（火曜）、 第1部：18時から20時、第2部：20時から21時

会場：函館市地域交流まちづくりセンター 3F 会議室A及びオンライン

参加費：無料 ＊どなたでもご参加可能です。

主催：くらしのデザインラボ（トヨタ財団国内助成プログラム）

第1部 Wellbeing：多様性・ものづくり・共感

講演＆ミニワークショップ

講師＆ファシリテーター：安岡美佳（デンマークロスキレ大学教員、北欧研究所代表、くらしのデザインラボ）

司会：阿部光平（In&OUT、くらしのデザインラボ）、岡本健（くらしのデザインラボ代表、公立ほくこで未来大学特命教授）

オンライン会場：https://meet.google.com/hnx-aagt-cyw

第2部 デンマークでの経験と挑戦から学ぶ

話題提供：安岡美佳（デンマークロスキレ大学教員、北欧研究所代表、くらしのデザインラボ）

司会：名畑公晴（北大共創センター、ISARIBI with、くらしのデザインラボ）

オンライン会場：https://meet.google.com/hrx-aagt-cyw

1部2部共通
オンライン会場



講演・ワークショップ・話題提供：安岡美佳／やすおかみか

デンマーク・ロスキレ大学准教授、北欧研究所主宰、くらしのデザインラボ 社会に役立つ情報技術についての研究者、北海道市民参加型デザインを用い、情報技術をベースに社会イノベーションを支援するプロジェクトを多数実施。文化内背景を踏まえた共創の方法論を構築し、日・北欧の比較実践に関心を持つ。

くらしのデザインラボは、トヨタ財団の支援を受け函館市内設立した市民団体です。「ものづくり」を原点に、住民等が協働して新しい暮らしをつくる活動を展開し、自らが暮らしを更大にいく創造的な職人の養成を目指しています。不定期に、交流会を開催しています。立場や分野を越えた対話と交流を通して、新たな気づきや今後のつながりが生まれることを期待しています。交流会や活動に興味のある方は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

みんなでつくるハコハク（左上：玄関の暖簾（刀）、右上：グッズ、下：源正雄体感展示）